

第3回 真鶴町お林保全協議会（概要報告）

※ グランドデザインに関する意見交換の部分のみ抜粋

- 1 日 時 平成30年11月16日(金) 14:00～15:20
- 2 場 所 町民センター 第2会議室
- 3 参加者 別紙のとおり

議題（3）真鶴半島グランドデザインに関する意見交換について

事務局… グランドデザインの策定業務については、過疎対策事業として町の自立促進に向けた全体構想を策定するもので、主要地区の4地区、真鶴半島、岩漁港周辺、真鶴港及び真鶴駅周辺地区について、今年度グランドデザインを策定するもの。

策定することとなった背景と目的については、真鶴町だけではなく全国的に人口減少や高齢化が進んでいる中、真鶴町がこの先、何十年にもわたって自立していくためには長期にわたる町の方向性を示す全体構想が必要であるという認識からグランドデザインを策定する。

地区別のグランドデザインでは、全体構想に沿った地区イメージである地区の将来像や基本方針、事業内容として主要事業の検討、基本構想図としてイメージパースの作成や事業実施に向けた主要事業の短期・中期のスケジューリング概算事業費の作成をすることとしている。単なる構想図を作るだけではなく、短期とか中期の主要事業の概算事業費も算出していくというようなものである。

真鶴半島グランドデザインのコンセプトや方向性は、貴重な自然、歴史、文化、美しい景観などこの地区が持つ地域資源の保全を図ると共にこの貴重な地域資源を守りながら有効に活用していくことで、真鶴に住む人だけではなく真鶴を訪れた人が真鶴らしさを感じることができる、体験できることのできるような地域づくりを目指していくものである。

既に10月16日には真鶴半島亀ヶ崎等利用推進会議の中でもご意見をいただき、また10月21日には住民との検討会で住民の方からご意見をいただいているところである。

本日の協議会においては、お林に関して特に思い入れや知見をお持ちである当協議会の委員の皆様のご意見を伺いたく議案としたものである。

委員… この町へ来てほしい、お金を落としてほしい、ということであれば年配の女性である。年配の女性は、きれいな物があるところと甘い物があるところ、みんなで話しができる場所の三つの要因を好むと思っている。

だれを誘致すべきなのか、だれに来てもらいたいのかということまず考えて、その人たちを誘導する吸引要因は何かということ、またお金を落としてくれるような要因を作りながら、だれを対象に呼ぶのかということを討議したほうがよい。

委員… お花のきれいな町というふうにした方がいいと思う。お花のある真鶴、これは強力な吸引要因だと思う。

委員… きれいな物を見せて何を食わせるか、真鶴の欠点は泊まる場所がない。ホテルか何かを誘致できればと思っている。

事務局… ホテルについては、例えば展望公園やケープ真鶴、番場浦駐車場などといった所であれば木を切らなくてもできる場所である。もちろん木を切って建てるだけではなく、そういった

空いている、木を切らないで活用できる場所でのホテル誘致ということによろしいか。

委員… 木と木の間の頭上にあるレストランを見たことがある。あんなのも面白いと思う。

事務局… ツリーハウスも4～5万円で貸しているよう事例もあり、とても人気があるようだ。

委員… 前から出ている話だが、ここにある吊り橋の設置場所は亀ヶ崎から展望公園という構想か。

事務局… ご意見いただいた方は、いろいろな場所にとということであった。

委員… いろいろな場所に造るのはいいのだが、吊り橋は控えの面積が相当必要になり、木を伐採する必要もある。リゾートマンションや大型ホテルを建てるとするのは、漁業に絡んでくる。魚によっては光を嫌うものがあると聞いている。

委員… お林の中に行く公共交通が1時間に1本、行きたい人の足がない。歩く人たち、単に歩いていてこの木はなんなのか、この草花はなんなのか、聞かれても分からない。観光資源とするためには、木の名前、花の名前みたいなものを入口に看板で置くとか、木のそれぞれに名前をつけるとかいったことをやっていただきたい。

今のままの形で、例えばセグウェイだとか電動バイクだとか電動自転車で、パークアンドライドみたいにして、歩く人も移動する人も危険がないようなコース設定ができれば、将来的にはますますお林の価値は上がるのではないかと思う。

委員… お林にはいろいろな種類の植物がある。それぞれに名盤のようなものをつければ自然の植物園になる。

委員… 看板に書くよりも、木につけた方が分かりやすい。また、半島からは三浦半島だとか伊豆半島が見えるが、観光客は分からない。そういった案内看板は所々にあるといいと思う。

委員… 小松石にQRコードを埋め込んで、このエリアの花は何なのかスマホで読み取る。文字量はQRコードに全部放り込めるので、将来的にはそういう方向を考えたいと思っている。名盤みたいにするのか、石の上を磨いてそれにQRコードを埋め込んでおくというのも一つの方法。真鶴の小松石、真鶴のお林、が全部連動してくる。

委員… 植物も町で球根を植えたりしたことがあるが、みんな持っていかれてしまう。ハマユウを植えたりしたこともあるが、1か月もたない。

委員… 自然保護の意味も含めて、仮想だが、半島全部を博物館としてしまう形にして、QRコードという話もあったが、今はただで提供しているアプリがあるので、お金がかからずにいろいろなことができてくると思う。それを町で取りまとめて、例えばお林の花、海岸の生き物、全部入力してそのアプリさえあれば半島全部が分かるようになる。それが一つの博物館として全体がコーディネートされるようになれば、盗んでいくというのも減るだろうし、入口で入場料を取ったりだとか、トータルで何かあったりしてもいいのかなと思う。

委員… 半島全体を博物館化するという考えは良い。

委員… 建物はいらないし、コンテンツを全部つなげて、全体として雰囲気上げる。そこまではまだ誰もやっていないし、首都圏からも近いので、やれば一発でオンリーワンとなる。

委員… 管理が問題。

委員… 物を植えたり、観光用に何かやろうとしたりしても続かない。お金が無くなる、ボランティアがいなくなる。せっかく自然のままになっているところをどう生かすかという発想のほうが良いと思っている。東京では育たないような植物でも抜いて持って行ってしまう。でももうそれはしょうがない。例えば我々もゴミを拾っているが、相変わらずゴミは捨てられる。でも拾い続ける。それをやっていくしかない。立ち入らないという制御を掛ける方が、私は正しいと思う。

委員… 町の人はずっとお林と言って愛してきた場所なので、町の人にとって大切な場所でなければいけない。しかし、観光で外部から来てもらってお金も落とさせていただくということが町民の潤いにもつながっていくので、町内外両方のニーズが必要だと考える。この町には「美の基準」というものがあり、お林保全だけで考えるのではなく町全体の美の基準というものに沿って、そこにみんなが集まっていくような感じにすると、一本何かがあるというふうになるのではないかな。いろいろな事業があっても、最後はそこにたどり着くという形にしていると、町が一つにまとまっていくのかなというふうに思った。

観光面では、お林には灯明山があっても「灯明山」とあるだけで、昔ここはどういう場所であったかという歴史的な説明もない。看板があっても、地図はあるが距離も書いていないので、見た方が何分ぐらいで歩けるのか目安がたたない。訪れた人が記憶にも残るようなものとか、親切な案内というのは必要ではないかと考える。

教育面では、やはり教育というところでも生かしたほうが良いと考えており、海洋教育という位置づけで、町全体でこの町は「海洋教育に優れた町です」というふうにしていくのではないかなと考える。海洋教育の中には、地場産業の石材も海が近いから江戸まで運びやすいとか、みかんも海辺の温暖な気候だから育てやすいとか、基幹産業である漁業もある。環境問題、今のプラスチックゴミとか海流ゴミの問題とかもできるし、食の勉強もできる。魚などの食材の勉強もできるし、自然勉強もできる。気象勉強もできる。また火山噴火ということで歴史や地殻的な勉強もできる。そういったことを一つ一つではなくて海洋教育ということで考えるといろいろなことが全部関わってくる。あとは今進んでいるICT教育や試験養殖をしている牡蠣のこと、町でもいろいろと良いことをやっている。いろいろな課でいろいろな良いことをやってくださっているのだから、最後みんなでもとまれるような形にできると形になっていくのかなというふうに思う。

委員… グランドデザインということを考えると、この先100年富士山はなくなっているかもしれないが、海と伊豆半島、房総半島、大島はなくなるならない。このロケーションを活かす、例えば林を少し切り開いて横浜方面を見やすくするとか、展望公園のところは伊豆半島が見えるロケーションを活かす。この先100年確実に変わらないものを活かす方向を考えたほうが良いと思う。

委員… お林は「魚つき保安林」である。それをまず忘れてほしくない。ホテルを造るだとか、マンション造るだとか、なんか話が違う方向に行ってしまうような気がする。グランドデザインという中で何が出て来てもいいと思うが、魚つき保安林を真っ先に持って来ていただきたい。先ほどお林が明るくなったというような話しをしていたが、私が子どもころお林は明るかった。お林って明るいから日が入って、樹木が成長し、それでまたうっそうとし一時お林の中は暗かった。それでまた最近台風でいろいろな木が倒れてまた少し明るくなった。何十年、何十年というサイクルで変わっていくのだと思うが、ただ漁業者から言わせていただくと魚つき保安林というのは絶対に忘れてほしくない。だから漁業者の立場からすると下手に触ってほしくない。県立自然公園になっているので、先ほど博物館という話も出たが、自然の植物園という方向のほうが私としては良いのではないかなと思う。

オブザーバー… 関東の中でもこれだけの大きな木があるところは滅多にない。これは確かに学術的に言って素晴らしいものだと思う。その辺をもっと評価していただきたい。子どもたちがお林の木を見たり、木を囲ったりしただけで「気」をもらえらると思う。そういった子どものころの思い出があると良い。絶対そういうものができるようになると思う。

委員… お林と漁業が結びついているというPRが弱い。

委員… 大分前から魚つき保安林というのは言っていることだし、結構知られていると思う。

委員… 木の高さが揃っている。こんもりしてきてきれい。

委員… 海から見るのも良い。星が山から真鶴半島を見るのも最高。

委員… 「巨木がある」ということもそうなのだが、海岸線からずっと森まで続いている連続性がある場所かつ海岸線まで人が入れる場所というのは、思い出しても伊豆半島や三浦半島でもそんなにない。関東というか、日本でも少ないと思う。その一体感をちゃんと説明し、それをアピールする必要がある。漁業や森にはストーリーがあって、人が守ってきたという全体としての価値をしっかりとコーディネートして発信していく作業がこれから大事であると思う。それをやることによって、本当の自然とか人の営みとかを知るといふものを価値として来てくれるお客さんはこれから増えてくると思うし、逆に真鶴はそれに尖ってしまっていると思う。そうするとクオルティーが高いお客さんが来てくれる。「関係人口」という言葉があるが、「観光以上・移住未満」、要は真鶴のファンみたいな、何かあれば、時間ができれば真鶴に来るようなお客さん、自然が好きで、海が好きで、魚が好きでという人たちが来てくれるようになれば、お林だけではなくて、お魚も買うだろうし、いろいろなお店ができればそこに立ち寄るだろうし、というようなターゲットを狙っていくと、観光客数は減らないし、客単価も高いし、シーズン変わらず来るし、そういうターゲットを狙うのがいいのかなと思っている。ワッと来るようなお客さんは客単価も良くないし、バツ引いて行ってしまいうのであまりおもしろくない。

あともう一つ、子どもを引き付けるものが欲しいと思う。私の住まいの近所には特に何もないのだが、フワフワドームというトランポリンのようなぴよんぴよん飛び跳ねる遊具があり、それを目当てに町内の子どもたちがかなり来ている。また周辺の地域からもかなり来ている。そうすると子どもや大人たちがいる環境が自然にできる。

例えば、展望公園のようなところでこの辺にはないようなちょっとした遊具を置くと周りから子どもたちが来るし、真鶴には子どもたちがあまり遊ぶ場所がないので、ここに自然と人が集まる。その隣にはちゃんと解説がしてある子どもが入って勉強ができる森があったり、磯があったりすると自然と集まった子どもたちや家族連れがそういう場所を巡るようになる。よく見たらこんな大きな木があったんだねと広がっていき底上げになる。地域全体から集まれる場所にしていくには、観光的なアプローチではなく、そういったアプローチも考えていっていいのかなと思う。